I-10

マレーシア旧市街地のショップハウスの空間特性に関する研究
世界遺産地域のペナンとマラッカのショップハウスを比較して
A Study on Spatial Characteristics of Shophouse in Old Town Area of Malaysia Comparing Shophouses of World Heritage Site Penang and Melaka

○田邉勇輝 [1], 重枝豊 [2], 加藤千晶 [2]
Yuki Tanabe[1], Yutaka Shigeeda[2],Chiaki Kato[2]

Abstract: The purpose of this research is to describe and define the shophouses in Melaka and to propose an index that can be used by Malaysians. When I was young, I actually lived in a shophouse in Melaka, Malaysia. In Melaka, the rules and laws of preservation and utilization of historical buildings have not functioned sufficiently, and in particular, the shophouses outside the world heritage have not been used or have been demolished. In addition, high-rise buildings, hotels, etc. are crowded around the heritage area, and the landscape is damaged. The goal of this research is to find a new uses for the shophouses and prevent their demolition by searching for it. Furthermore, I would like to define and identify about what kind of homes Malaysian children would like to continue living in the shophouse destrict.

1. はじめに

近年，マレーシアのショップハウスの研究はあまり進展が見られない．これまで布野修司，宇高雄志らによる地域別の実測調査及びヒアリング調査より，ショップハウスの空間構成や利用状況，または市街地空間，都市的視点での考察が散見される．しかし，ショップハウス特有のカキリマについての調査や研究，多種多様なショップハウスの形態的特徴などの詳細な調査や考察がほとんど見られない．著者は卒業論文ではマラッカのカキリマに着目することにより，ショップハウスの変遷を研究した．

本研究では，卒業研究で扱ったマラッカと同じ世界遺産地域であるペナン島ジョージタウンの現状を調査した．マラッカとジョージタウンのショップハウスを比較することで，カキリマが生み出す空間特性や利用状況などを明らかにすることを目的としている．

2. 研究方法及び調査地域

研究方法は，世界遺産資料や現地資料などを用いた文献調査と，現状の街並みを把握する目的でカキリマ部分の実測と街並みの撮影を行なった．

調査地域はマレーシアのショップハウスが多く現存する，世界遺産地域のペナンとマラッカである．ペナンは2019.8.19-21 に調査を行なった。ペナン世界遺産中心地であるジョージタウンの King 通り（Lebuh King）、China 通り（Lebuh China）、Pasar 通り（Lebuh Pasar）、Penang 通り（Penang Street）、Queen 通り（Lebuh Queen）に囲まれている2つの地区である。マラッカは 2018.5.2-4/8.17-22/2018.12.29-2019.1.5 に調査を実施した．世界遺産中心地の華人街である Tun Tan Cheng Lock Street と Hang Jebat Street である．

3. ショップハウスについて

ショップハウス [1] は，原則として 1,2 階建てで店舗と住居の店舗兼住宅と住宅だけの住居専用がある．特徴は，庇を突出したカキリマと呼ばれる下屋空間を有していることである．そこでは，露店を展開したり，居住空間の拡張に用いられてきた．また，カキリマとは 5 歩ほどの間口の大きさであったことから「ファイブフットウェイ」とも呼ばれる。ショップハウスは左右の壁を共有壁としており，開口が設けられないことから通風，採光を目的とした「エアウェル（中庭）」と呼ばれる吹き抜けが存在する．貿易に関わる，多くの華僑系住民が利用した建築形式である．

図１　マラッカの
ショップハウス

図２　ペナンの
ショップハウス

3-1. マラッカのショップハウス

ユネスコ委員会の分類 [2] によれば，年代的にマラッカのショップハウス（図1）が一番古く，ペナンのショップハウス（図2）は，約150年後に建てられたものとされている．

卒業研究ではマラッカのショップハウスを対象とし，建物にカキリマが付加されたものと，そうでないものが存在することを明らかにした．カキリマが付加されているショップハウスの形式を，初期型と定義づけている．

3-2. ペナンのショップハウス

ペナンには初期型はみられず，2階部分に大きな開口部を設けるショップハウス（図2）が多くみられた．ジョー

１：日大理工・院（前）・建築 ２： 日大理工・教員・建築

ジタウンには ,1840 年ごろのショップハウスの建築様式である No.4 Early Transitional Style（以下，初期伝統様式と呼ぶ）が多く存在する．この初期伝統様式は，道路前面部分の2階全体に開口部を設けているショップハウスである．泉田英雄によると[3], ペナンの市街地開発は 1798 年である．これはシンガポールで行われたカキリマを用いた都市計画よりも 30 年ほど早い．そのため，現存するショップハウスは 19 世紀後半以降，カキリマが連続化するのは 19 世紀末からである．また，この地区がジョージタウンの中で最も古い市街地であることがわかる．

また，この地区に初期伝統様式が多く存在する理由は，現存するショップハウスが 19 世紀後半以降に建設されたことがあげられる．

4. 調査結果及び考察

ペナンのショップハウスの特徴として以下の2点があげられる．1つは2階部分の大きな開口部である．もう1つは，角地に建つ場合のショップハウスの側面の活用方法にある．角地の建つショップハウスは図3や図4（どちらもマラッカで撮影）から2つの形式がみられる．

図3 Type1 は側面が共有壁のショップハウスである．このショップハウスは，ユネスコ委員会の分類[2] では ,18 世紀から 19 世紀前半に建てられた．共有壁には小さな開口部のみ設けられており，特別な機能はない．その理由として，ショップハウスの構造は壁（共有壁）で屋根や床を支えるため，大きな開口部を設けることができないためだと考えられる．

図4 Type2 は，側面が共有壁でない RC 造のショップハウスである .1920 年以降に鉄筋コンクリート造の普及後に建てられた．ここから，図4は図3よりも後に建てられたものであることがわかる．よって，前面道路に対してカキリマを広く設けることができ，カキリマを含む1階の店舗の面積を広く利用できる．さらに，時代による建築材料の変化から店舗として多様な活用が可能なショップハウスとなっている．

図３　Type1

図４　Type2

図５　Type3

ペナンで調査したショップハウス（図5 Type3）は，マラッカにはない活用形式である．このショップハウスは前面道路のファサードから，初期伝統様式と推測する．側面が共有壁であることや正面の開口部より，構造は鉄筋コンクリート造ではなく，図3に近い活用形式であるだろう．しかし，ここでは図4のように側面全体を活用している．側面にカキリマは設けられていないため，屋根や備品が道路に飛び出ている．このような活用形式をしているショップハウスはマラッカの調査地域では見られず，ペナン独自の活用事例と言える．

このような活用はカキリマが活用される前の形式であることも考えられる．カキリマが整備された理由は，景観の統一と路上販売の禁止である．路上販売の商品や顧客を日射や降雨から防ぐために，トタンなどの庇や軒を設けた．その結果，これらの構造体が路上に飛び出てたとみられる．カキリマを整備し，これらの路上販売をカキリマで行うことで庇などの構造体が路上に出すことを防ぎ，公道の不法占拠をなくした．このペナンでの活用にはカキリマがなく、公道に庇が飛び出ている．これは，カキリマが整備される前のショップハウスの形式と考える理由である．以上のことは，市街地開発がされた最も古い地域であることを示している．また，現地調査からこの地区が華僑人街ではなく，インド人居住地として栄えていたことがわかった．

5. まとめ

最も古い市街地地域という観点から，現地調査及び文献調査を用いて，ペナンとマラッカのショップハウスの現状を考察した．マラッカでは華僑が中心に活動していたが，ペナンでは華人街でインド系商人が活動していた，インド系商人の活動については，まだ明らかではない．華僑とインド系の建築形式に違いはあるのか．この地区が華僑人街としてではなく，インド人居住地として栄えたことも踏まえて，検証を進めていきたい．

6. 参考文献

[1] アジア遊学　2005/10/20　勉誠出版　p.152-p.191[2] Melaka and George Town, Historic Cities of the Straits of Malacca Nomination 1223bis (inscribed minor boundary modification)[3] 海域アジアの華人街　泉田英雄　2006/3/30　学芸出版社 [4] 多民族共住のダイナミズム　宇高雄志　2017/2/28　昭和堂 [5]malacca voices from the street　Lim Huck Chin 2006[6]Penang Shophouses A Handbook of Features and Materials Tan Yeow wooi Phoenix Press 2015[7]home of peranakan　Melissa Chan 2015　baba&nyonya heritage museum